

**雑草を防除して
植生を改善しよう**

植生の悪化は、サイレージ品質低下の要因となります。
今回は、植生改善に向けた雑草防除について紹介します。

草地における主な雑草

地下茎イネ科雑草

①シバムギ

出穂前のシバムギは、一見するとチモシーとの判別が難しい草種です。茎が細く、倒伏しやすい特徴があります（写真一）。嗜好性が悪く、サイレージ発酵しづらい草種です。

②リードカナリーグラス

リードカナリーグラスは、太い茎で倒伏に強く、草丈は成人男性の背丈を超えるほど生長し



写真1 雨で倒れたシバムギ

ます（写真二）。出穂後は茎部の木質化が進むため、嗜好性が低下します。

広葉雑草（ギンギン類）

ギンギンの古株は一株から二万粒の種を落とすと言われ、繁殖力旺盛です。また、土中の種が更新時の耕起により光を受け、発芽し、繁茂する事があります。

植生に合わせた雑草防除

雑草が三割以上占める草地は、防除の対象となります。

優占する雑草が地下茎イネ科雑草か広葉雑草か植生を確認し、防除方法を選択しましょう。

地下茎イネ科雑草が多い場合

イネ科雑草の防除は、草地更新時が唯一の機会となります。既存植生にグリホサート系除



写真2 男性の背丈ほどに生長したリードカナリーグラス

草剤（主な商品名 ラウンドアップ、タツチダウン等）を散布し、徹底的に故殺しましょう。

【除草剤使用のポイント】

①草丈三〇cm程度で散布

草丈が伸びすぎると散布ムラとなる。特に倒伏したシバムギは、実際の草丈より短く見えるので、適期を逃さないよう注意する。

②除草剤散布後、十日以上おく

可能であれば散布後二〜三週間おく。期間をおくことで、薬剤が根まで移行し、雑草再生を防げる。

③少量散布で効果を高める

専用ノズルを使い、希釈水量を二五〜五〇ℓに減らす方法。散布ムラを防ぎ、雑草防除効果を高める。

広葉雑草が多い場合

①草地更新時に防除

播種床造成後、四〇〜六〇日間において、雑草の発芽揃いを待ちます。

除草剤が展着する大きさに展開したらグリホサート系除草剤を散布し、故殺します。大きくなりすぎると、影になった葉に

薬剤がかからなくなるので、散布時期を見極めましょう。



写真3 実生で500円玉大、経年株で手の平大の頃に散布

②除草剤の茎葉散布

更新時以外に、ハーモニーやアージランの茎葉散布という選択肢があります。薬剤毎に留意点があるので、使用前に必ず確認して下さい。

また、大きな古株がある、ギンギンの占有率が高い場合、裸地になる心配があります。防除と併せて追播をご検討下さい。



写真4 専用機で追播した直後の畑の様子

（平成二十五年五月作成）